

令和4年度 大田区立矢口東小学校 自己評価 報告書

令和5年2月18日

○ 本校の概要

本校は昭和2年(1927年)に東京都荏原郡矢口東尋常小学校として開校以来、今年で95周年になる。卒業生は1万人を超え、親子3代にわたって矢東が母校という地域の人も多い。校地は東急蓮沼駅より徒歩5分、多摩川線矢口渡駅から10分の便利な場所にあり、多くは戸建てや小規模な集合住宅が建っている。大規模な集合住宅はなく、今年度全校345名の児童数で昨年度から学級数も増えてきている。児童は全体的に落ち着いた学校生活を送っている。本校の教育目標は「自ら学ぶ子、心豊かな子、たくましい子」であり、知、徳、体のバランスの取れた教育を目指している。将来本校に在籍している児童が、しっかりと自立して社会に役立つ人間になれるよう、教育目標の実現に向け、全教職員が力を合わせて教育活動を行っている。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 (A～Dのいずれかに○付けてください。)		
								評価	人数	コメント
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にかなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	「自分にはよいところがある」の問いに肯定的な回答が85%以上	4:	○外国語教育指導員とは、授業の事後に次時の学習内容の確認をしている。担任が単元末にスピーチやプレゼンテーションの活動等入れることを提案し、実施した。児童の実態を考え、担任主導の授業も実施している。 ○論理的科学的な思考力の育成を目指し、理科では、探求結果を発表する活動を行った。「おおたの未来づくり」科に向けて、来年度以降授業の計画を行う予定。教員だけではなく、企業等の協力があると心強い。 ○ICT機器の活用では、校内の研修や教員間で情報交換をして、様々な取組をしている。総合的な学習の時間、社会、理科等を中心に有効な学習場面を考え、選択的に実施した。 ○人権教育等の一環で白杖体験や車いす体験を通して障がい者理解を深めた。本校の特別支援学級の児童と関わるカリキュラムを組み、児童が相互に他者を理解する力を高めていく。 ○マラソン週間やなわとび週間などの学校の取組に合わせて学級でも持久走やなわとびに取り組んだ。児童が個々にめあてに向かって努力していた。	A	8	・コミュニケーション能力の向上、自己表現、論理的に分かりやすく説明する力、他者と関わることがあらためて重要なスキルと思います。ICTやAIを道具として活用し自分で情報処理し、他人に伝えられる能力をさらに伸ばしてほしいです。 ・英語の授業中は、日本語も使用しますか？ →できるだけ使わないようにしています。授業が進まない状況が生じたときにのみ使用します。
			3:80%以上が回答した。							
			2:60%以上が回答した。							
			1:60%未満であった。							
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。	3	「自分にはよいところがある」の問いに肯定的な回答が80%以上	3:				
			3:80%以上の教員が行った。							
			2:60%以上の教員が行った。							
			1:60%未満であった。							
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。	4	「自分にはよいところがある」の問いに肯定的な回答が70%以上	2:		3		
			3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。							
			2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。							
			1:60%未満であった。							
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。	4	「自分にはよいところがある」の問いに肯定的な回答が60%未満	1:				
			3:80%以上で行った。							
			2:60%以上で行った。							
			1:60%未満であった。							
体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:全教員で行った。	3	「授業が楽しい」の問いに肯定的な回答が95%以上	4:						
	3:80%以上の教員で行った。									
	2:60%以上の教員で行った。									
	1:60%未満であった。									
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。	4	「授業が楽しい」の問いに肯定的な回答が95%以上	4:	○毎学期末に学習カルテと通知表をもとに一人一人と対話し、振り返る機会をもっている。学力には個人差があるので、個に応じた学びを実践していけたらよい。学習につまずきが見られる児童には、その児童の学習能力にあったプリントを用意している。 ○ステップ学習チェックシートについては、夏の保護者会にて確認方法を伝えた。確認方法について各学期、保護者向けの案内をしている。 ○東京ベーシックテストをもとに補習対象者を決め、学習補助員による補習を行った。習熟度別の算数の授業では、必要なコースの児童の指導補助に入って学習支援をしている。 ○授業改善推進プランを確認してから準備をする期間が短い。改善プランを夏休み前に提案できれば、授業準備が可能と考える。	A	5	・先生と児童との楽しさに違いがあるのかと思いました。 ・学習に対する自己肯定感を持つ事、持たせる事は、とても、大変だと思います。本当にご苦労様です。 ・習熟度別の授業でも補習が必要になると思います。 ○授業改善推進プラン 各先生が前向きにやろうと思うことが実現出来ると良いと思います。
			3:80%以上で行った。							
			2:60%以上で行った。							
			1:60%未満であった。							
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。	3	「授業が楽しい」の問いに肯定的な回答が90%以上			3:	2:	
			3:学期毎に知らせた。							
			2:年度間に1回は知らせた。							
			1:お知らせできなかった。							
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。	3	「授業が楽しい」の問いに肯定的な回答が80%以上			2:		
			3:80%以上の教員が働きかけた。							
			2:60%以上の教員が働きかけた。							
			1:60%以下の教員が働きかけた。							
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	「授業が楽しい」の問いに肯定的な回答が70%未満			1:		
			3:80%以上が回答した。							
			2:60%以上が回答した。							

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 (A～Dのいずれかに○付けてください。)		
								評価	人数	コメント
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4: 全教員が行った。	3	「友達にやさしくしている」の問いに肯定的な回答が90%以上	4:	○小中一貫の場や生活指導主任会において、情報交換や情報共有をすることができた。学校、学年、学級、専科における児童の実態について教職員間で話す機会が多くあり、日常から実態を共有することができている。 ○自己有用感、自己肯定感を高められるよう、クラスでの役割を作り、一人一人が活躍できる場を設けることができた。 ○ストレスを抱えている児童に対して、教員同士で情報を共有したり、複数の教員や介添えで対応したり、スクールカウンセラーに適切に繋げたりすることができた。 ○いじめ防止委員会という組織が立ち上がっているの、何かあった時に相談しやすい体制を整えている。また、組織的に対応できる。教員のいじめに関する指導も、常にアンテナを張り、見逃さずに指導をするよう共通認識している。 ○不登校児への対応は、ケース会議を実施し、担任だけでなく、管理職や養護教諭と連携を取りながら進めている。	A	8	・友達に対する優しい気持ちをもつことは、たくさんの優しい大人とのふれあいという体験がとても大切だと思います。地域の大人たちとたくさんコミュニケーションとれる事も大切だと思います。 ・つまずいた子ども自己肯定感を高められるステップ、小さな成功体験を積める機会があると良いです。 ・「いじめ」に対しては、迅速にきめ細かく対応していただき、児童のアンケート結果にも表れていると思います。社会の中では、ストレス耐性の低い社員が増えていますが、ストレスに強い人間に育てていただきたいです。
			3: 80%以上の教員が行った。							
			2: 60%以上の教員が行った。							
			1: 60%未満であった。							
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4: 学期に2～3回(年間6回)以上行った。	3	3:					
			3: 学期に1回(年間3回)以上行った。							
			2: 年度間に1回以上行った。							
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4: 「組織的対応ができた」と全教員が回答した。	4	2:					
			3: 80%以上の教員が回答した。							
			2: 60%以上の教員が回答した。							
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4: 「組織的対応ができた」と全教員が回答した。	4	1:					
			3: 80%以上の教員が回答した。							
			2: 60%以上の教員が回答した。							
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4: 必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。	4	4:					
			3: 必要な事案に対しておおかた会議を実施した。							
			2: 必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。							
1: 必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。										
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4: 全教員で行った。	4	「進んで外遊びをする」の問いに肯定的な回答が80%以上	3	○保護者の協力も得ながら、早寝早起きなどの生活習慣は整えられた。学校全体でどの程度達成できているのか、またその後も家庭で継続できているか確認する機会が必要。 ○食育として、栄養士の方にお話を頂いたりお昼の放送でメニューについて解説してもらったりしたことは児童にとって効果的だった。学級でも食材や食生活について考えるよい機会となった。 ○大田区小学生駅伝大会への出場を機会にして、学級で男子900m、女子700mのランニングを行い、体力の向上を図った。また、休み時間には、学校の取り組みでもある「なわ跳び週間」や「マラソン週間」も運動習慣確立の機会とした。	A	8	・様々な環境の家庭があり、協力・連携していくのにも、ご苦労すると思います。 ・帰宅後、外遊びする子が減っているので、休み時間の外遊びから体を動かすことは重要ですね。先生と一緒に遊んでくれるので、子どもも嬉しいと思います。 ・「スポーツ」というと引いてしまうので「歩く」という事も大切にしていくと良いのかなと感じました。
			3: 80%以上の教員で行った。							
			2: 60%以上の教員で行った。							
			1: 60%未満であった。							
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4: 全教員で行った。	4	3:					
			3: 80%以上の教員で行った。							
			2: 60%以上の教員で行った。							
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4: 全教員で行った。	4	2:					
			3: 80%以上の教員で行った。							
			2: 60%以上の教員で行った。							
			4: 全教員で行った。	4	1:					
			3: 80%以上の教員で行った。							
			2: 60%以上の教員で行った。							
			1: 60%未満であった。							

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 (A～Dのいずれかに○付けてください。)		
								評価	人数	コメント
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりまします。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	保護者アンケート「子どもたちにとってわかりやすい授業をしていた」の問いに肯定的評価が90%以上	4:	○保護者の目線でいただいた評価は、客観的な視点として授業改善のヒントがあり、参考にしていく。 ○主任教諭によるOJT研修では、短い時間で濃い学びを得られている。教職員間が互いを知る機会にもなり、学校運営にも生かされると感じている。 ○研究発表会に参加した教員が、伝達講習を行い、常に最新の情報を共有することができた。また、校内外の授業参観を大切にし、日々の指導に役立てることができた。 ○校内委員会を定期開催していくことによって年間における児童の変容や6年間を通じた児童の変容が見えてきて支援の方法について深く考えていくことができた。	A	6	・新しいことは、どんどん取り入れて欲しい。大変とは思いますが、頑張っていたら嬉しいですね。 ・先生たちの努力に頭が下がります。 ・安全教育に力を入れていただけて有難いです。
			3:80%以上の教員が回答した。							
			2:60%以上の教員が回答した。							
			1:60%未満であった。							
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。	3	保護者アンケート「子どもたちにとってわかりやすい授業をしていた」の問いに肯定的評価が80%以上	3:				
			3:学期に1回(年間3回)以上行った。							
			2:年度間に1回以上行った。							
			1:実施しなかった。							
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	保護者アンケート「子どもたちにとってわかりやすい授業をしていた」の問いに肯定的評価が70%以上	2:				
			3:80%以上の教員が回答した。							
			2:60%以上の教員が回答した。							
			1:60%未満であった。							
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。	4	保護者アンケート「子どもたちにとってわかりやすい授業をしていた」の問いに肯定的評価が70%未満	1:				
			3:学期に2～3回行った。							
			2:学期1回以上行った。							
			1:実施しなかった。							
プラン6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。	4	保護者アンケート「教育活動の様子をわかりやすく伝えているか」の問いに肯定的評価が90%以上	4:	○学校便りやホームページで教育活動や学校経営方針等を情報を公開し、更新をしている。また、学年だより、学級通信をはじめとして学校における児童の様子を地域の方や保護者に伝えている。 ○今年度は昨年度と比べ、地域教育連絡協議会が3回以上開催でき、従来の実施内容に近づくことができた。また、学校評価が可能な情報や資料等を提供することができた。 ○コロナ禍において、停滞していた地域との交流も行われるようになり、諸問題等を地域に発信したり、地域の力を借りることができるようになった。地域との連携は行えているが、学校支援地域本部との連携がなかなか行えなかった。連携を取ることで、よりスムーズに地域と連携していきたい。もっと連携が取りやすいように工夫する。	A	9	○学校便りやホームページ学校の活動情報が更に充実するとより使われそうですね。更新業務は大変そうなので、いつでも見に来てくださいますように… 「いきいきとした学校」と目標を示していただき、どのような学校を目指しているか分かりやすいです。学校が、明るく生き生きとした活気ある場所となるのを期待しています。 ・いつも学年だよりを楽しく読ませていただいています。子どもたちの様子がよりわかります。 ・資料が見やすく良かったと思います。 ・家庭でできない部分を地域がフォローできればと思います。
			3:学期に2～3回更新した。							
			2:学期1回以上更新した。							
			1:更新しなかった。							
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。	4	保護者アンケート「教育活動の様子をわかりやすく伝えているか」の問いに肯定的評価が80%以上			3:		
			3:おおむね情報を提供した。							
			2:あまり情報を提供しなかった。							
			1:情報を提供しなかった。							
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4:学期に2～3回行った。	3	保護者アンケート「教育活動の様子をわかりやすく伝えているか」の問いに肯定的評価が70%未満			1:		
			3:学期1回以上行った							
			2:年1回以上行った。							
			1:実施しなかった。							